

## 解答

問一	a 築
問二	b 厳密
問三	c 事績
問四	d 領域
問五	安心して飛行機を飛ばすこと
問六	3
問七	1 A 1 B 4

問一	成り立ち
問二	2 社会科学
問三	3 はたらき

問一	3 3 1
問二	2 A e ① 1 ③
問三	2 B 4 ② ④ 3
問四	2 C 3
問五	2 D 1
問六	
問七	

問一	ア 3、4
問二	イ 7、9
問三	ウ 2、8
問四	エ 1、10
問五	オ 5、6

## 解説

## 一

問二　直後の部分に着目します。ネコを屋根から放り出すとちゃんと着地することや、灰皿を目の高さまで上げて止めておくことが簡単に実行できるという例のように、「それが成り立つていることを自分で証明できるのに、意識がそれを理解できない」ということは、じゅうぶん経験する」ことから、選択肢2が選べます。

問四　——線③の前に着目します。実証とは、脳のなかの規則と、外の世界の規則とを、対応させる行為で、その対応がつけば、飛行機を飛ばすことができたため、多くの人はそれだけが科学だと思いこんだという内容から、最もふさわしいものは選択肢3になります。

## 二

## 問五

——線⑤の後からわたしの気持ちを読み取ります。「わたしが走るのが好き、ですって？　どうしてそんなことがあなたにわかるのよ。」といらだち、お兄ちゃんの足をあんなふうにしてしまい、ランナーとしての輝かしい未来をだいなしにしたと自分を責めている様子から、「腹立たしさや悔しさを感じていて」という記述を含む選択肢1がふさわしいことがわかります。

問七　本文には、兄のケガを自分のせいだと思いこんで陸上から遠ざかっていた比呂が、イタリアにいる兄からの電話で本心を知り、気持ちの整理がついて、もはやシユーズでもう一度走ろうと思った様子が描かれていて、最もふさわしいものは選択肢3になります。